

# 水産

管理監督者  
担当課長～

25年目以降  
(40代後半～)

グループリーダー  
主任主査級

(上席水産業普及指導員 等)  
20～25年目程度  
(40代中盤～)

サブリーダー  
主査級

(主査水産業普及指導員 等)  
15～20年目程度  
(30代後半～)

中堅  
主任級

(主任水産業普及指導員 等)  
10～15年目程度  
(30代中盤～)

若手  
技師級

2～10年目程度  
(20～30代前半)

新人  
新採用

1年目

主な職名：水産業普及指導員、専門研究員 等

主な配置先：農林水産部水産振興課、広域振興局水産部（各振興センター）、水産技術センター、内水面水産技術センター、漁業取締事務所 等

県職員としての土台づくり。  
知識経験をしっかり吸収。

様々な分野を経験。実務  
の中核として活躍。

視野を広げながら担当業務  
を推進。後輩もフォロー。

幅広い視野で業務を推進。  
チームの要として活躍。

チームを引っ張り、県  
の政策・施策を立案。

豊富な知識・経験で  
組織をマネジメント。

【共通】  
・水産関係法令の基礎知識  
・水産技術の普及指導に必要な専門知識・技術  
・コミュニケーション力  
【研究部門】  
・資格取得（配属ごとに魚類防疫士、潜水士、  
小型船舶）

【共通】  
・漁業者、漁協等関係者との折衝・交渉力・人脈形成  
・発想力・実行力  
・プレゼンテーションスキル  
【行政部門】  
・許認可等申請者に対する適切な指導力  
・漁協経営動向などの経営診断の基本スキル  
【研究部門】  
・試験研究に関する専門知識、学位・資格の取得

・関係機関等との折衝・  
交渉力  
・企画力  
・情報収集・分析力・洞察力  
・チーム内のマネジメント力

・管理監督職として所属職員  
や事務事業をマネジメント  
する能力  
・これまでに培ってきた専門  
分野の知識・経験等を踏ま  
えた高度な能力（説明・交  
渉・調整力、判断力、指導  
力、分析力）の発揮  
・人材育成能力

📌 若手職員の配置  
必要な技術・知識の習得と適性把握のため、複数の職場（本庁  
と広域振興局等）での勤務を経験。知識・経験や適性に応じて、  
行政部門・研究部門に配置。

農林水産部会計事務担当職員研修

農林水産部新採用職員研修

新任水産業普及指導員等研修

普及員現地研修

水産試験研究発表討論会参加（水産技術センター）

測度研修

漁業監督公務員研修会

いわて水産アカデミー聴講

📌 育成方針：職場を離れて受講する研修（off-JT）に加え、日常の仕事を通じた上司・先輩からの指導（OJT）や自主的な学習・研鑽（自己啓発）を組み合わせる育成

注1：各職位の目安（○年目）は大卒程度を想定したものです。注2：研修のうち太い枠線のあるもの（着色されているもの）は必修研修であることを表しています。

キャリア

必要な知識・能力・役割

職員育成（主な研修）